2016年（平成28年）
第97号（1月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

今月の言葉　～「まず人さま」の心で～

京都教会長　佐藤益弘

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平成２８年を迎えました。今年は開祖さまから会長先生に法燈が継承されて２５年という節目の年でもあります。お互いさまこの「節」を大切にし、しっかり修行精進させて頂きたいものと存じます。

弊会機関誌の『佼成』１月号に掲載されております会長先生のご法話は、**「まず人さま」の心で**、という題であります。平成１５年「年頭法話」の中で会長先生は、「**『平和な人になる』**ということは、諸行無常と諸法無我という真理を深く認識する人間になるということです。佼成会では、こうした真理を、**『すべては自分』**、**『まず人さま』**という表現をもって教えてきました」とご指導くださっています。

そのように、「まず人さま」は、真理を深く認識させて頂くためにも欠くことのできない実践行です。そのことを思い、行ずることにより、損得や執着を超え、救われると教えていただきました。誰もが意識すれば、身近なところで様々な「まず人さま」という行いができ、**調和と思いやりの世界が現れる**に違いないと確信いたしました。

後段では、自分とっての「まず人さま」とは何かを問うてみてはいかがでしょうか、と促してくださっています。単なる「まず人さま」ではなく、それぞれ独自のものは何かということと、受けとりました。別の言い方をすると、一人ひとりが個別のテーマを持つということではないでしょうか。

私自身は、**「いつでも、どこでも、誰にでも『まず人さま』の心で実践させて頂きたいと決意を新たにしました。**しかし、日常、難しい場面に出くわすことが多いので、その実践は容易でないと覚悟しています。

先日も、地下鉄の駅構内で、エスカレーターに乗ろうとしたら、中年のご婦人お二人が私の前に割り込んで入ってきました。しかも、その女性たちは何ら悪びれる様子もなく私の前に立っておるのです。私はその姿を見て、「なんと図々しい女性なのだろう、無礼千万！」と思いました。

ところが、よくよく考えてみると、「まず人さま」という気持ちで乗ろうとしていなかった自分であったのにも拘わらず、実際の状態としては人さまを先にすることになり、**布施行をさせて頂くチャンスを図らずも授かった**のだと思いました。

善いことの実践をしたくても条件が整わなければ出来ません。その条件を自ら努力することなく頂けたのですから、これは**仏さまからのプレゼント**と受けとって合掌すべきお手配と思いました。

すると、目の前のご婦人たちに対して、予定外の布施行ができ、**「ありがとうございました」という心に変わりました。**ご法話のお蔭さまで、「まず人さま」の実践が、一つでも出来て有り難いと思えたのであります。

これからも一層、**心を耕し、柔らかく、豊かな心**で、精進させて頂きたいと思います。本年も宜しくお願い申し上げます。

時事刻々

あけましておめでとうございます。今年も身近な出来事や話題を元にこのコラムを作り、ホットなコーナーにしていきますので、よろしくおつきあいください▼今年は申年。猿の絵や置物が世間にあふれています。今年の干支にちなんで、猿が登場することわざから、一年の指針にならないかと考えてみました▼「猿も木から落ちる」（達人といわれる人でも失敗することがある）のだから、失敗を恐れずチャレンジしよう▼「猿の尻笑い」（自分のことを棚に上げて他人をあざ笑う）や「猿に烏帽子」（外見だけで中身が伴わない）にならないように謙虚で中身が伴った生き方をしよう▼「犬猿の仲」（非常に仲が悪い）にならないように心がけ、逆に「猿に絵馬」（取り合わせのよいもの）と言われるような関係になりたい▼「見ざる聞かざる言わざる」は都合の悪いことや他人の欠点は見たり聞いたり言わないことという戒めですが、世の中の動き、特に政治について、見て聞いて言っていくようにしたい。

ＴＢＳテレビ「サンデーモーニング」で、ＷＣＲＰの重要性に言及

TBS の日曜朝の番組「関口宏のサンデーモーニング」(11/15 日・11/29 日放送分)で、コメンテーターの寺島実郎氏(立命館大学客員教授・日本総合研究所理事長)が、**ＷＣＲＰ(世界宗教者平和会議)**について言及しました。

11 月 15 日の放送分では、パリで起きた IS(イスラム国)のテロ行為に対して、司会の関口宏氏の**「彼らにとって交渉の窓口はないのでしょう？いくらこちらから話しかけても通じないのでしょう？」**という問いに対して、寺島実郎氏が**「世界宗教者(平和)会議というのがあるんですね。しっかりとした正当性を持った、権威と知見のある方々がいる。**

イスラムだって全員が過激派でもなければ、キリスト教に対する敵対勢力でもないわけです。犯罪は犯罪であるというところにとどめないと、イスラム全体を敵にするような構図にしてしまうと、世界中が益々おかしくなる。

以前に、ドイツのシュミット元首相が**『21 世紀の最大の課題は、イスラムとの対話だ』**と言った。イスラムには世界の若者を駆り立てる要素があり、ヨーロッパには 1,700 万人のイスラム人口があって、彼らは鬱積(うっせき)した目線で世界を見ている。

その若者たちがIS(イスラム国)の呼びかけに応じて動くから、こういったこと(テロ)が起こる。

そういったイスラムとの対話に対して、**ダライ・ラマやバチカンなども含めた世界宗教者(平和)会議**という仕組みの中で、宗教者としてこういった事態に方向付けをして、**政治だけでこの問題を解決しようと思わない方がいいですね。宗教で政治を動かすという新しい時代が来ています」**と、述べられました。

奇しくも、放送日の 11 月 15 日は、ＷＣＲＰの創設者のひとりでもある**庭野日敬開祖の生誕の日**でもあります。

昭和 53 年、国連で開催された**「第一回国連軍縮特別総会」**において、庭野開祖は米ソをはじめとする世界の為政者に対し「**危険を冒してまで武装する よりも、むしろ平和のために危険を冒すべきである」**と訴えました。

また、**「政治と宗教は、車の両輪。どちらが欠けてもまっすぐに進まない」**と説かれました。

期せずしてこのような放送が全国ネットで流れたわけですが、**「しっかりと、取り組んで下さいよ」**という、私たちに対する**庭野開祖からのメッセージ**だったのではないでしょうか。

青年婦人部だより　「ちょっといい話!!」　　～京洛支部　特区主任　星　恭代さん～

京都に来て一年が経ちました。この一年で娘の方が京都教会によくなじんでいます。娘は支部長さん、会計さんはじめ支部の方々にかわいがって頂き、教会に行くことが大好きです

パパが毎朝ご供養していると、娘も鐘や木鉦を用意して加わり、おままごとで料理を作って、じいじに御供物を供えてりして、遊びの中でもいつもご供養をしています。

お友達に対しても優しく接することができて、**ご法が毎日の生活の中で活かされているんだなと感じます。**近所のお友達家族などを見ていると信仰のありがたさを実感します。娘は信仰四代目になります。

自分達の力だけではなく、両親はじめ、**ご先祖さまのおかげさま**でこのような娘を仏さまから頂けたのだと思うと感謝でいっぱいになります。

今年最初の会長先生のご法話で**「まず人さま」**と教えて頂いています。どんなことにもひとつひとつ**ありがとうと丁寧に伝える娘を見習って、**周りの方が喜ぶような温かいふれあいをしていこうと思います。

私達が引っ越してきた後に転入されてきた方々が数人おられます。その方々や近所のママ友にも温かいふれあいをして、**よいご縁になれるように**精進していきます。

合掌

交流を深め平和を誓い合った　「新宗連京滋合同懇談会」

12月8日、ANA クラウンプラザホテル京都において、新宗連京都府協議会と同滋賀県協議会のメンバーが一堂に会し、合同懇親会を開催しました。

新宗連の歌の合唱、スローガンの唱和に続き、京滋両協議会の議長のあいさつ、新たにメンバーに加われた方々の紹介が行われました。その後、会食やアトラクションなど、楽しい交流の時間を過ごしました。

がんばれ受験生!!　合格祈願のつどい

12月13日、京都教会法座席において、「合格祈願のつどい」が開催され、受験勉強のさなか、７名の参加がありました。祈願供養、合格鉛筆授与、教会長さんのお言葉を頂き、その後法座が行われました。

教会長さんはお言葉の中で、**「受験はチャンスを授けますよ。という仏さまからのプレゼントを頂いている」**と、受け取り方を教えて下さり、自身も受験を迎えて毎日ご供養した経験を述べられました。

合格発表の日は、朝８時に父親が自宅から１時間半もかかる学校へ見に行ってくれたことを通して、それまで父親が苦手だったが、**「親は子供の為ならどんな苦労もいとわないのか？」**と感じたと、当時の様子を語り、「皆さんも、**多くの陰の力があってこそ受験できる**ということ、そしてこの受験を**ご先祖さま、ご両親に感謝して生きられる機会**として頂きたい」と結びました。

少年部・婦人部　～　クリスマス会　～

12月13日、京都教会体育館において、少年部・婦人部合同のクリスマス会が行われ、親子合わせて約120名の参加がありました。

鼓笛演奏、レクリエーション、ゲームなどを楽しみ、昼食を頂きました。さらにお友達の輪を広げることが出来ました。

「自衛隊について」　庭野開祖著『平和への道』より

昨年成立した安全保障法により、自衛隊が海外に派遣され、さらには再軍備につながる恐れを感じている人も少なくないでしょう。自衛隊や再軍備について、４０年以上も前に出版された著書から、庭野開祖が述べていたことを改めて読んでいきます。

自衛隊や再軍備に対しては、世間には大別して二とおりの意見があるように思われます。一つは自衛隊も含めて、あらゆる軍備を撤廃してなくすべきだという意見です。完全非武装にしたために攻められることはないだろうし、仮に攻めてくる国があったとしても、攻められてもよいではないか、殺されてもよいではないかと、徹底した考え方の人もいます。

もう一つは、前者を理想論にすぎないとする、いわゆる“戸締り防衛論”であります。軍備撤廃は理想であるが、世界各地で他国の兵士に殺された罪もない民間人が少なくないので、武力介入にはやはり、それを拒否するある程度の力が必要であるし、また、わが子や家族が殺戮の危機に直面したような場合、はたして無抵抗でいられるかどうか。それがよいのかどうかと疑問視する意見です。

「世界宗教者平和会議」は“非武装”を三大テーマの一つとして、完全非武装を提唱しましたし、仏教の諸説をひもといてみましても軍備を積極的に容認した文章は、どこにもありません。宗教者の使命は、一方では、このあるべき姿としての完全非武装に向けての努力と運動を一歩二歩と積み上げ、他方では、武器に頼らずとも、お互いに信じ合える世界を創り出すための努力をあわせ行う。その両方にあると思います。

戸締りが全く必要のない社会を多くの人が望んでも、今すぐに戸締りを全廃できる人は、まずありますまい。警察官の必要がない社会を作ることが警察官自体の願いであるはずなのに、現実には警察官の必要な社会が続いています。

したがって、わたしは、自衛隊が必要でない国際間の状態を強く願いつつ、それらに向けての努力を重ねながらも、現実においては、その存在もやむをえないと容認しております。

現実というものは弾力性に富み、流動しているものですから、結局は右だ左だ、やれ保守だ革新だと、一線を画して憎しみ合うなどということは、ただでさえ狭くて住みにくい日本をますます、せせこましくしてしまうのではないでしょうか。

自衛隊もそれなりの理由があって生まれたものですから、現在の与えられた条件のなかで、これをいかに善用するか、ということを考える必要がありましょう。たんに税金のムダ使いなどと批判するのではなく、国民のための自衛隊として温かく見守ることが大切だと思います。あとのことも考えないで、ただ解散しろと冷たく扱うのは簡単ですが、それだけでは若い自衛隊員をかえって反動に追い込み、悪い結果を生ずることにもなりかねません。　（中略）

要するにわたしたち宗教者は「生きとし生けるものを損なう人は、そのうえに高貴ではない。あらゆる生き物を損なわないならば、その人こそ高貴な人と呼ばれる」（『法句経』270 番）ということと、それから「攻撃用の武器を持っていながら、相手を真に愛することはできないということ、この二つのことを肝に銘じておくことが何よりも大切です。

自衛隊があるよりも、なくてすむ安全な世界、日本であってほしいのは当然のことです。しかし、そのためには、自衛隊を国際的な戦争行為の主体にさせてはなりませんし、戦争を起こしそうな客体的な諸条件をなくすために、世界の諸宗教者と力を合わせて危険な芽を小さなうちにつみとる努力をしなければならないのです。

自衛隊が動く前に政治家の平和外交が必要であり、その前に宗教者の平和活動が先行しなければなりません。それが活発になれば、自衛隊の存廃論議に口角泡を飛ばす必要のないものになると思うのです。

１～２月の主な教会行事

１月１日（祝）	6:30～	元旦参り
７日（木）	9:00～	ご親教
10 日（日）	9:00～	脇祖さまご命日
15 日（金）	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
24 日（日）	10:00～	京都教会成人式
24 日～31 日	6:00～	寒中読誦修行
２月３日（水）	9:00～	節分会
15 日（月）	9:00～	涅槃会

●メッセージ

毎年恒例の今年の言葉が、昨年は**「安」**でした。安倍政権のもとで可決した安全保障関連法案、世界で続発したテロや異常気象、マンションの杭打ちデータ流用などで人々が不安になったことなどが理由に挙げられました。皆さんが「不安」だった訳ですね。

今年は**安心・安全といえる社会づくり**にお互いさま努力精進させて頂きたいと思います。よろしくお願いします。　合掌